千代田景観街歩き

千代田で探す鉄道遺産と技術者の知恵

御茶ノ水-神田-秋葉原、小野田滋氏と巡る鉄道遺産

レクチャー、街歩き、懇親会の記録



はじめに

御茶ノ水 - 神田 - 秋葉原を結ぶ三角形のエリアには、駅・橋・架道橋、高架橋・・そして煉瓦造・鉄骨造・RC造など、明治時代から現代に至る多様な鉄道遺産が集積しています。 それは、過去の遺産ではなく、現役のリビング・ヘリテイジです。

そのような鉄道遺産を、鉄道総合技術研究所の小野田滋氏と 巡り、技術者達の知恵と工夫を発見すると共に、都市の景観 としての価値を認識する街歩き「千代田で探す鉄道遺産と技 術者の知恵」をJIA千代田地域会の主催で開催しました。

参加されたのは地域会のメンバーを含む25名。小野田氏のレクチャーの後、台風一過の強い日差しの中でしたが2時間の街歩きを楽しみました。

これはレクチャーから街歩き、懇親会までの全記録です。

企画・記録作成 するで 大た







小野田滋氏による鉄道技術者と 鉄道遺産のレクチャー

挨拶:篠田義男 進行:桐原武志 設営:大橋智子

会場:日本大学理工学部5号館

Photo by Ichikawa/Kirihara





JR御茶ノ水駅 1932年/伊藤滋・土橋長俊 都市鉄道駅の原点が凝縮されている



2 地下鉄御茶ノ水駅 1954年/伊藤滋・土橋長俊 ル・コルビュジェの下で修業した土橋ならではのモダニズム建築







3 聖橋 1927年/山田守、成瀬勝武 放物線を描く鉄筋コンクリートアーチ橋

御茶ノ水橋梁 1956年 4 車窓からの眺望を確保するため桁の高さが低く決められた







昌平橋架道橋 19084年ドイツ・ハーコート製であることを示す銘板が付けられている



- 松住町架道橋 1932年 - 下路ブレーストリブタイドアーチ橋 - 重量感のある橋梁は鉄道橋梁発達史でも特異な位置を占めている





9

旧万世橋駅 1912年 MAAch マーチエキュート神田万世橋 2013 年/ジェイアール東日本建築設計事務所

万世橋高架橋、旧万世橋駅の鉄道遺産を活かし再生された商業施設MAAch。施設の各所で遺構を見ることが出来る





千代田で探す鉄道遺産と技術者の知恵

後列 市川達夫 戸田光栄 竹内未和 溝口峰隆 大津美有貴 野崎和彦 村重秀彰 小林千絵子 遊佐謙太郎 菊池雅彦 石川一郎 山内茂樹 海老名熱実 中列 太田安則 井上まゆみ 金出ミチル 木宮加代子 木村恵美子 前列 中山信二 桐原武志 小野田滋 篠田義男 高木愛子 米岡宗臣







10 万世橋架道橋 1930年/黒田武定 日本で最初に主桁に曲線桁を使用した架道橋

神田川橋梁 1919年/阿部美樹志・大河戸宗治 変形懸垂曲線と呼ばれるアーチ形状が用いられた







12 東京万世橋間市街線 1919年 13 平永橋架道橋 1923年/1990年/ コンクリートアーチの高架橋 13 工事中 3世代の架道橋が見られる



14 東京上野橋間市街線 1925年 コンクリートラーメンの高架橋







15 運河橋梁 1932年 秋葉原貨物駅の運河に架っていた



昭和橋架道橋 1932年/田中豊 田中豊はスリムで無駄のない造形 を自らの会心作と述懐している



17

第一佐久間町橋高架橋 1932年

天空にそびえるようにして連なるアーチ高架橋は、他の高架鉄 道では見られない独特の景観を 誇っている



Photo by Kirihara



技術の積み上げ、鉄骨やコンクリートの文 化を分かるような説明がありましてよく理 解できました。



久々の街歩きだったのですが、やはりこういう実物を見て歩くのは非常にいいなと思いました。

今日は鉄道橋をたくさん見せて頂いてとて も楽しかったです。鉄道橋をきちんと見れ たのははじめてでした。大変シンプルな鉄 道橋に少し興味が湧きました。

この場所を選んだことは褒めて下さい。 [懇親会担当:市川達夫] 図面よりもやはり実物を見ることが力がある るなぁと本当に感じました。



先生のご説明を受けてそうだなと思ったのは、 鉄道に関与している設計者は元の遺産を残し て設計するもので、必ず全部壊さないで使い ながらやっているというのをあらためて感じ ました。



鉄道とか川の橋など、土木の建物も建築的な視点で見るととても面白いので、そういうところを我々としてはこれから追及していきたいと思います。

非常に勉強になりました。是非こういったことを また次のまちづくりに活かしていきたいと思い ます。



昭和54年に国鉄に入って、国鉄で採用された人はもうJRでも1割をきっている絶滅危惧種で、私の何年か後で国鉄採用は終わりですので、最後の生き残りのような感じです。国鉄の歴史をいろいろと背負った一番最後の世代ですので、それを次の世代に伝えていきたいという思いはあって、本を書いたり、そういった形で、先輩達はこういうものをつうだ、ということをなるべくこういうものをからたんだ、ということをなるべくこういうが、一般の人も含めてそういう話を伝えていきかいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。[小野田滋]



懇親会 La cave ALT.

Photo by Kirihara/Toda



La cave ALT. *APUTYUNANDY*

街歩きガイド



ちらし

千代田景観街歩き

千代田で探す鉄道遺産と技術者の知恵 御茶ノ水-神田-秋葉原、小野田滋氏と巡る鉄道遺産

主 催-公益社 因法人 日本建築家協会(JIA)干代田地域会

御茶ノ水ー神田・秋葉原エリアは、駅・橋・高架橋、煉瓦造・鉄骨造・RG造、明治時代から 現代に至る鉄道遺産が集積しています。そのような鉄道遺産を、鉄道総合技術研究所の 小野田滋氏と巡り、技術者達の知恵と工夫を発見する街歩きです。

多くの方のご参加をお待ちしています。



見学予定の鉄道遺産()内は地工年

JR御茶/水駅(1922)、地下鉄御茶/水駅(1922)、新お茶の水橋(1958)、万世標高架橋(1912)、 神田川橋(1922)、松伯町銀道橋(1922)、万世橋銀道橋(1930)、東京万世橋岡市街線(1919)、 東京上野宿市街線(1925)、神田川模型(1919)、MMAch7f1F1-F神田万古楼(2018)、後

開催日時 7月12日(土) 14:00~17:00 (集合14:00)

集合場所 日本大学理工学部5号館5階スライド室 上記地図 0 参加費(資料代) 一般: ¥1,000、学生: ¥500 (自日初支払いください) 申込方法 氏名、メールアドレス及び「千代田景観街歩き参加希望」と

お書きの上、6月30日(月)までメール satok-o@nifty.com

にてお申込み下さい。 募集人数 25名(先益版)

★ 25mg (大幅を) (本価値を) (本

「千代田長朝街沙舎」はJA間東平径越支鉛が主要する「アーキテクトガーチン2014技業機」のイベントです



孙庄:杨原武志

6代では、水気につるのでは、カープラーへとかった。 素量や外見なも全域化やするととなった。 東京下性機能・再発はすべて大陸・エノブト・接着であったが、 発掘の仕上げとして被及るイルを辿ったため、一見すると研究情帯・ 通過を振り込むはませる人名。後本機能を参考中二十四名

作成:钢梁武志

技能/後工年/割計者

验工: [908年(明約37年)

7。

万世拼高尔特

独工: [9]2年

验工:20[3年

万世被尔道被

独工: [550年 表計: 進田改定(快進省度

友第一家良事或研?

神田川様候

独工:[9]9年 表計:美河戸森谷

東京万世福西 市告接

验Ⅰ: [9]9年

П

9 MAAch (マーチエキキュー |神 田万世緒|

干代田

再底

验工:[双5年

验工:山平鎮·京港度北鎮 1923年,東北上韓州幹鎮 1990年,東北韓西鎮工事

通河福祉公牧学原公開

验工:[552年(運河製漆)

第一性久間町被高尔特

田和祥尔维特

验工:[552年 表計:田中豊

验工:[552年 表計:

14 平永祥尔道特

15